

国際価格急落、生産地拡大に逆風

自動車部品などに使うレアアースの国際価格が急落した。高性能磁石の原料は4月比で2〜3割安い。尖閣諸島を巡る日本と中国の緊張を背景に高騰した2010年以前の水準に戻った。世界貿易機関(WTO)から協定違反とされた中国が、輸出枠や輸出税を撤廃した。価格の下げが響いて米国の生産者は破産法の適用を申請し、再び中国依存が強まっている。

過剰投資が重荷

「調達で中国比率が増える」とリスクが高まる。合金鉄大手、新日本電工の幹部は指摘する。

同社は関連会社を通じて、米国のレアアース生産会社モリコープから磁石の原料を輸入している。中国の輸出規制が厳しくなり、13年にモリコープからの調達を拡大していた。そのモリコープは6月25日、日本の民事

レアアース 中国依存再び

再生法に相当する米連邦から出資を集め、生産設備の整備や増産を進める裁判所に申請したと発表した。

新日本電工はモリコープの出荷が止まっても当面は影響がないとするものの、将来中国の影響が再び強まると警戒する。

10〜11年のレアアース価格の急騰直後、中国以外に生産地を広げる計画は200以上あった。現在あるのはモリコープやオーストラリアの資源会社ライナスなど4件だ。モリコープはファンド



江西省南部にあるレアアース鉱山。中国産は安くて良質と評価が高い

輸入増の日本、リスク上昇

件費などを切り詰めているとみられている。

昨年10月には、豪州のライナス本社からスタインメッツ最高コマーシャル責任者(CCO)が来日した。同氏と商談に臨んだ日本企業によると、スポット(随時)ではなく、3カ月や6カ月という期間の契約を提案したという。

だが年内値上がりはないとの見方が強い。先安観もある中で、ライナスが目指す長期契約の獲得には逆風が吹き付ける。

住友商事が12年からカザフスタンで進めるレアアースの回収事業も稼働にこぎつけられない。政府系の石油天然ガス・金属鉱物資源機構(JOGMEC)から支援された国家的事業だが、価格交渉の難航や技術者の不足に見舞われている。

中国産レアアースは「安くて、品質も需要家が求める水準」(商社のマ

真相深層

テリアル・トレイディング・カンパニー(東京・港)。

レアアースの価格が下がり続けても、中国産が市場で生き残る可能性は強い。日本企業は再び中国依存へと向かう。

日立金属は電気自動車(EV)などのモーター向けに、レアアースを用いた磁石を製造する。中国の輸出規制に対応し米国の工場での生産を始めた。だが、既に米国で一部の生産を停止し、最近中国の磁石メーカーと製造販売の合併会社の設立を決めた。

世界の関心薄く

レアアースの再利用も下火になった。ガラスの研磨剤などに使うセリウム。価格が1キ150ドルに高騰した当時、ガラスのスクラップから取り出すリサイクルが進んだ。

回収コストは同700〜800円かかる。現在セリウムの価格は2ドル前後

まで下がり「リサイクルをやる意味がなくなった」(専門商社のサムウツド(東京・千代田)。

14年の日本のレアアースの輸入量は約2万2千ト。最も少なかった12年に比べて60%増えた。フランスなどを経田した

世界的な調達懸念も薄らいだ。毎年3月、カナダのトロントで世界的な鉱山会議が開催される。

取り上げたブリスはなかった(専門商社アドバンストマテリアルジャパンの中村繁夫社長)。

中国は国内のレアアース生産会社を統合し違法採掘の取り締まりも強める。中国が国際的な貿易ルールに従っても、世界のレアアース価格が再び

上昇する懸念はぬぐえない。

(今橋瑠璃華、荒尾智洋)